共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）
令和4年度公募説明会

地域共創分野
PO･副POメッセージ

令和４年5月16日

プログラムオフィサー　中川雅人
JSTシニアフェロー／株式会社デンソー　フェロー（嘱託）／
広島大学　客員教授

副プログラムオフィサー　西村訓弘
三重大学 大学院地域イノベーション学研究科　教授/三重大学　特命副学長／
宇都宮大学　特命副学長

科学技術振興機構

地域共創分野　プログラムオフィサー

中川　雅人　(なかがわ　まさと)
JSTシニアフェロー
株式会社デンソー　フェロー（嘱託）
広島大学　客員教授

経歴
1980年 広島大学工学部第一類機械工学課程　卒業
1980年 株式会社デンソー（旧　日本電装株式会社）　入社
2003年 デンソーセールスUK　チーフエンジニア
2005年 デンソードイツ　アーヘン研究所所長
2015年 株式会社デンソー　常務役員　兼デンソー欧州統括社長(CEO)
2016年 同社　常務役員　兼デンソー欧州技術統括(CTO)
2017年 同社　エグゼクティブフェロー　兼グローバル技術渉外統括者
　　広島大学大学院先進理工系科学研究科　客員教授
2019年 株式会社デンソー　フェロー（嘱託）
　　FEV Japan株式会社　取締役　兼技術統括責任者
2020年 現職

専門分野
内燃機関及び噴射システム技術
自動車分野の技術全般（自動運転含む）

地域共創分野　副プログラムオフィサー

西村　訓弘（にしむら　のりひろ）
三重大学
　大学院地域イノベーション学研究科　教授/特命副学長
宇都宮大学　特命副学長

経歴

1987年	筑波大学農林学類生物応用化学主専攻　卒業
1987年	(株)神戸製鋼所入社
1995年	筑波大学　農学博士取得
2000年	株式会社ジェネティックラボ入社
2002年	同社　代表取締役社長
2004年	三重大学医学部産学連携医学研究推進機構　特命教授
2007年	同大　医学系研究科生命医科学専攻　教授
2010年	同大　学長補佐（社会連携担当）
2011年	同大　社会連携研究センター研究展開支援拠点所長
2013年	同大　副学長
	同大大学院地域イノベーション学研究科　教授（現職）
2020年	宇都宮大学学術院　教授（現職）
2021年	同大　特命副学長（現職）

専門分野
トランスレーショナル医科学
地域イノベーション学

地域共創分野　設置の背景等

【共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）　設置の背景】

- 将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要。
- 「ウィズ／ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、産学官民で将来ビジョンを策定・共有し、その実現に向かって取り組むことが必要。
- 経済が厳しい状況にある中、国が重点的に支援し、大学等を中核とした組織対組織の本格的な共同研究開発の推進と環境づくりを進めることが重要。

【地域共創分野　設置の背景】

- 新型コロナウイルス感染症拡大は、知的・人的・物的リソースを都市部に依存する一極集中型の日本社会の脆弱性を浮き彫りに。
- 地域への分散化によって、強靭性（レジリエンス）を獲得・リスクを最小化し、地域産業・社会の抱える課題を地域が自立的・持続的に解決し続ける仕組みとなるイノベーション・エコシステムの構築が急務。
- 絶えず変化・複雑化する地域の課題に対し、知の拠点である地域大学等、地域ニーズを把握している地方自治体、出口となる企業が連携し、地域における産学官の地域共創の場の構築が必要。

総合振興パッケージによる支援全体像

- 大学が、自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化（**大学が変わる**）
- 大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革（**社会が変わる**）

地域・社会・ステークホルダー

～地域の社会経済の発展に留まらず、グローバル課題の解決や国内の構造改革・社会変革を牽引～

①大学自身の取組の強化

先端的な取組にドライブをかける支援の仕組み
（大学の強みや特色を伸ばす事業※等を通じ、当該事業間での連動を図りながら、強みや特色の更なる発揮を支援。それらを支える体制づくりとも連携。）
※P.11における【人材育成・社会実装】【研究拠点の形成、研究基盤の強化】部分が該当

社会との協働・対話を通じて、知の価値に対する投資を呼び込み

人文・社会科学も含めたあらゆる知識を総合的に活用（総合知）

自治体との連携強化、府省間の事業連携による一体的支援
※P.22～24および別紙（関連事業マップ）における取組が該当

制度改革（特区活用）

③地域社会における大学の活躍の促進

地域の産学官ネットワークの連携強化や座組活用

繋ぐ人材・組織の表彰

②繋ぐ仕組みの強化

機能強化・拡張

大学による
強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開
（大学のマネジメント改革を促進）

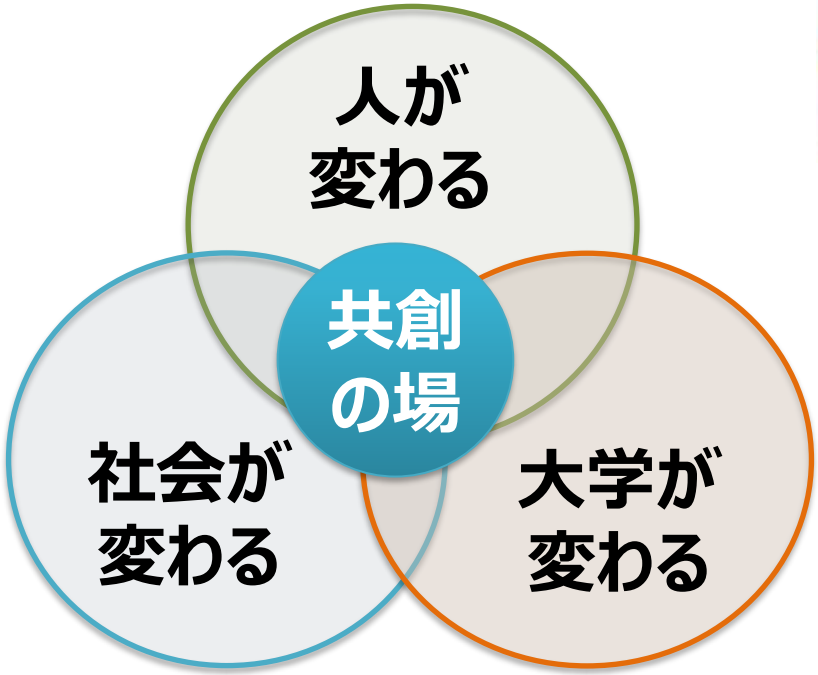
機能強化・拡張

恒常的に大学の強みや特色を伸ばすための体制づくり
（基盤的な活動を支援）

出典： 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ（令和4年2月1日 総合科学技術・イノベーション会議）

共創の場形成支援プログラムを通じて成し遂げたいこと

SDGs×ウィズ/ポストコロナの
社会像（ビジョン）共有



バックキャストによる
イノベーションに資する
研究開発

自立的・持続的な
産学官共創拠点の形成

社会課題を解決し社会を変える

特色ある地域大学

- 特定分野で世界TOPレベルの研究
- 地域課題に大学の“知”で貢献
- 産学官連携を大学が主体性をもって推進

地域共創分野において重視する点について　1／3

1．地域拠点ビジョンの策定・共有における徹底議論

・多様なステークホルダーを巻き込みつつ策定・共有することが極めて必要

・壁にぶつかった時に立ち戻る原点こそ地域拠点ビジョン、従ってメンバーで腹落ちする地域拠点ビジョンを共有することが不可欠（リーダーからの単純なトップダウンであってはならないと考える）

・現時点では実現が無理と思われるようなことがあっても、10年という期間があれば、社会を大きく変えることができる。地域社会の目指すべき姿を、関係者が自分事として捉えつつ、徹底的に議論して大きな構想を描き、その実現にチャレンジすることを期待

2．「誰のため」「何を解決したいか」の掘り下げ

・地域共創である以上、地域の市民や住民は重要なステークホルダー

・市民や住民の生の声を聞いて、どの地域のどんな年齢層の人たちの課題を解決するのかなど、より具体的に掘り下げて議論すべき

・市民や住民を巻き込んで共感を得つつ、地域一体のムーブメントに繋がっていけば理想的

地域共創分野において重視する点について　2／3

3．その社会課題をどのように解決しようとしているのか

（本格型）

・本格型期間終了時の達成目標（可能であれば定量的に）や具体的なアプローチの提示

・10年後の未来社会の姿からバックキャストして必要とされる基盤的技術と、提案時に保有している技術からの継続的進展で実現できる性能・要素との間には、多くの場合乖離があるが、この乖離がイノベーションを引き起こす原動力

・乖離を埋めることに焦点を当て、大学の強みや特色、拠点のコアアセット（研究、技術、知財、体制など）などをどのように活かし取り組んでいくかを議論し、必要な要素は外部からも積極的に取り入れることも検討の上、研究開発課題等を設定

（育成型）

・本格型に移行して社会課題を解決するために何が不足しているか、育成型期間中に何をすべきかの明確化・提示

地域共創分野において重視する点について　3／3

4．地域における「組織」対「組織」の連携強化

・「地域の特色に応じた」「組織対組織」の本格的な産学官連携

・地域大学等と自治体、企業等がお互いに必要な存在と認め合い、持続的で緊密なパートナーシップを築くことを強く期待（※）

・そのためには、上記それぞれの機関が、従来の考え方やビジネスに固執しては対応できない（自己変革が必要）

※補足

- （代表機関・幹事自治体以外の）参画機関の大学等・企業等は、当該地域内に所在している必要はない
- 自治体、企業等がプロジェクトにどのような形で関わるか、役割分担の明確化が求められる

5．顔の見えるリーダーシップ

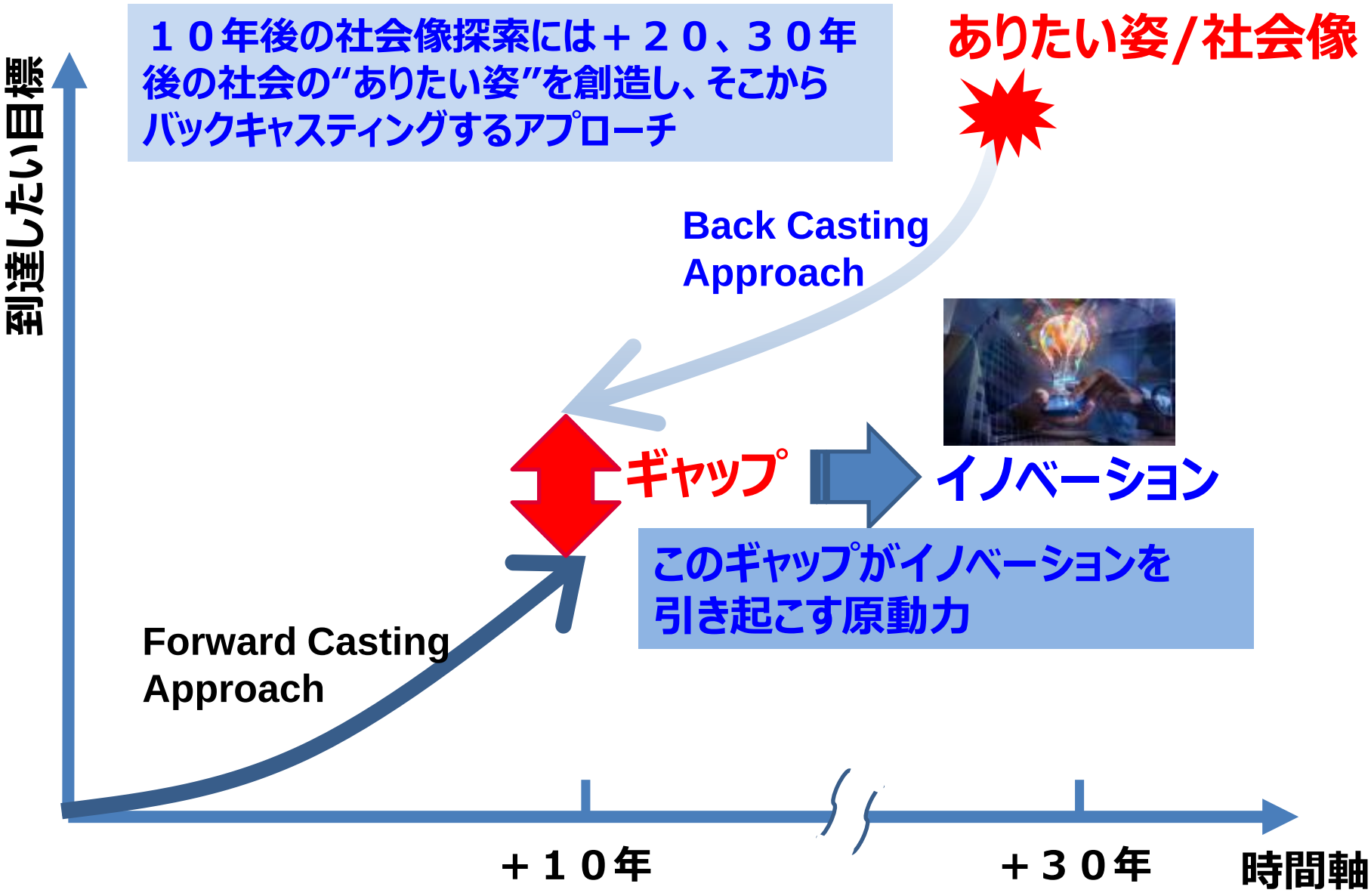
・地域の産学官共創を組織的に推進していく上で重要なのは「人」

・“対話”を通じ、人を巻き込み、「プロデュースできる人材」

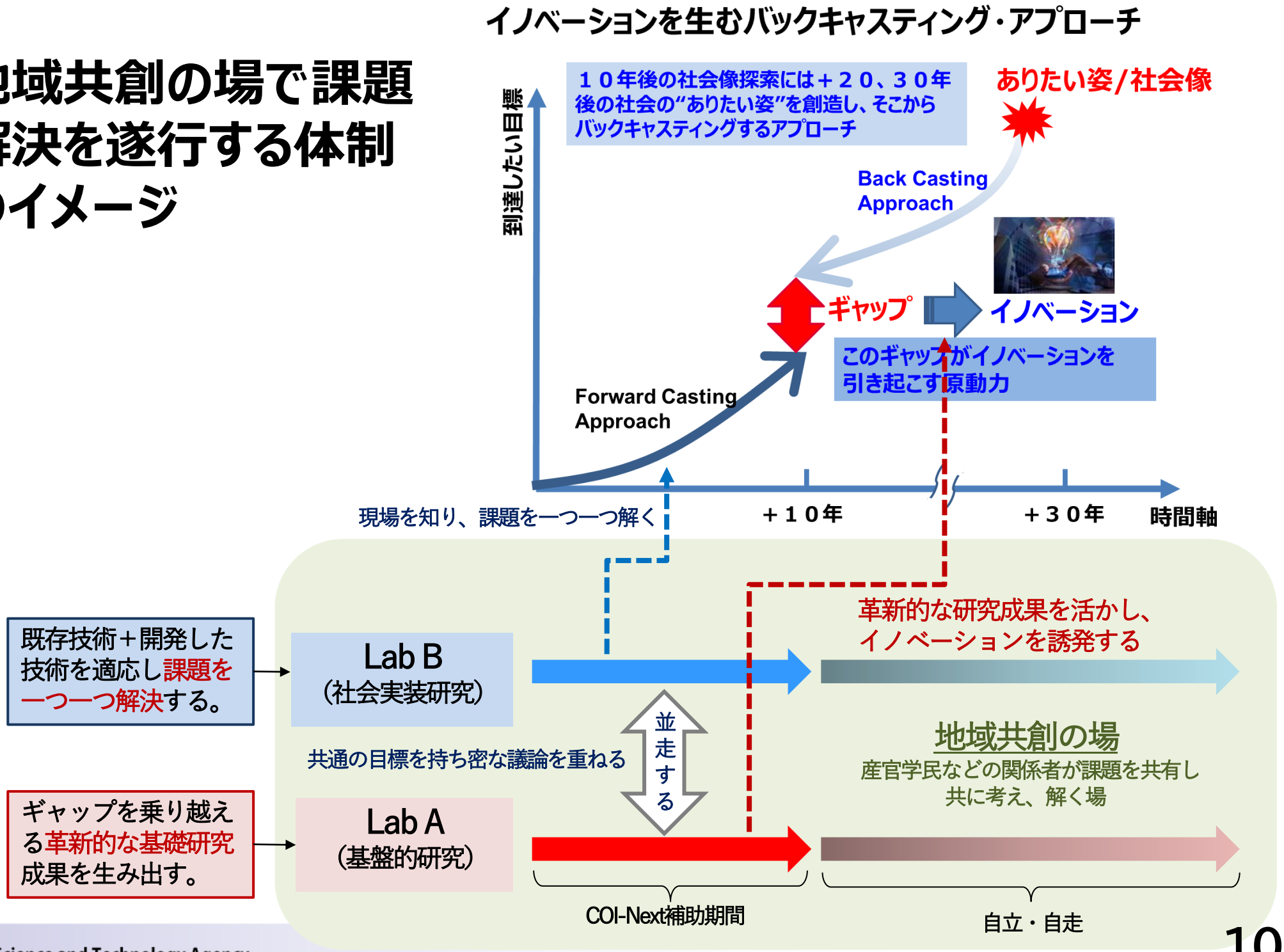
・熱い志、高いエネルギーをもった顔の見える人が周囲を巻き込み、地域一体の活動を牽引し盛り上げることを大いに期待

・若手や多様性に富む方々がプロジェクトを牽引することも期待

イノベーションを生むバックキャスティング・アプローチ



地域共創の場で課題解決を遂行する体制のイメージ



PO副POからのメッセージ：まとめに代えて

- 「現地現物主義」がモットー：地域ごとの現場を見て、理解し、地域の方々へ寄り添いたい
- 地域の産学官連携により社会課題を解決する着実な活動・実績を期待したい
- こうした活動・実績を全国各地で生み出し、それが徐々に波及する流れを生み出したい

意気込み・チャレンジあふれるご提案を、心より楽しみにしています